

## 教員養成フラッグシップ大学構想調書：要約版

テーマ：GIGA スクールに精通した教師力の高い教員の養成を目指して  
—ICT 教育先進地域上越からの発信—

### 1. 構想の趣旨

本構想は、上越教育大学（以下「本学」という。）がこれまで取り組んできた教師力向上のためのカリキュラムを一層充実させるとともに、学部「GIGA スクール対応科目」を、教職大学院に「GIGA スクール対応領域」を新たに導入することにより、GIGA スクールに精通した『令和の日本型学校教育』を担う教師力の高い教員を養成し、その成果を全国に発信するものである。

### 2. 構想の全体像

本学は、第3期中期目標期間に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりのできる教員の養成を進めるとともに、教職大学院の学校実習を地域で支える体制を整備することを目的として、本学が所在する上越市及び隣接する妙高市、糸魚川市、柏崎市（以下「上越地域」という。）の教育委員会と校長会との協働による「学校実習コンソーシアム上越」を立ち上げた。また、附属学校を含めた上越地域の各学校では以前より ICT 教育に力を入れ、ICT 教育先進地域となっている。本学では、ICT 機器を活用した教育にも重点を置き、教員養成の在り方の変化に対応するための基盤を整備してきた。こうした実績を基に、第4期中期目標期間においては、『令和の日本型学校教育』の内容を含む「教員養成学」の確立を目指している。

具体的には、Society5.0 時代に対応した現代的な教育課題に関する研究及び実践を主要課題として焦点化しており、教師力向上のためのカリキュラムの充実を一層推進し、令和4年度から新たに全学部生必修の「GIGA スクール対応科目」を導入する。この科目は①ICT 機器・教育データサイエンスの活用に関する科目を基軸とし、それらの科目で身に付けた知識・技術を活用する②STEAM 教育等の教科横断教育に関する科目及び③インクルーシブ教育に関する科目からなる。さらに、令和6年度からは、学部科目から大学院科目へと系統的に内容を深化させた「GIGA スクール対応領域」を教職大学院の共通科目に新設する。

本学学部の「GIGA スクール対応科目」の特徴として、1点目は教育実習協力校等との連携や附属学校での実績を活かし、情報モラルを加味した遠隔授業の構想と実践を行うこと、2点目は多くの教科専門の教員が担当する STEAM 教育等の教科横断教育、特別支援教育関係の教員と技術科の教員が連携して ICT 活用のインクルーシブ教育に関する科目を担当するなど、全学的な体制により実施されることが挙げられる。また、教職大学院においては、教員の育成指標の評価に基づく「教職大学院スタンダード」を現職教員、学卒院生別に作成し、教師力の向上を図ることが挙げられる。

また、教育現場・教育行政関係機関・他大学・民間企業・NPO との連携を通じてその成果を広く共有し、本取組の検証を踏まえ課題を明らかにし、更なるプログラムの改善を通じて、教員養成の在り方自体を変革していくための牽引役としての役割を果たす。

### 3. 先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発の内容

#### (1) 先導的・革新的な教員養成科目の概要

全学的観点から従来のカリキュラムを改善し、ポストコロナを見据えた『令和の日本型学校教育』に対応した全学部生対象の科目群（「GIGA スクール対応科目」）を新設する。「GIGA スクール対応科目」は、現在の教育現場で喫緊の対応が求められている ICT 機器を活用した教育に関する学びを軸にしながら、主体的・対話的な学び、個別最適な学び、協働的な学びの実現のために必要となる、STEAM 教育等の教科横断教育やインクルーシブな教育への応用をも含めた段階的・発展的な受講プログラムである。まず、教育における ICT 及びデータ活用の意義と基本的な統計に関する知識・技能の修得のため、①ICT 機器・教育データサイエンスの活用に関する科目を開講する。次に①の科目で身に付けた知識・技術を活用しつつ、STEAM 教育等の教科横断教育の意義を理解し、必要となる知識・技能を修得するため、②STEAM 教育等の教科横断教育に関する科目を開講し、インクルーシブな教育において ICT を活用する意義を理解し、個に応じた活用に関する基礎的知識・技能を修得するために、③インクルーシブ教育に関する科目を開講する。

一方、令和4年度からスタートする新教職大学院では、共通科目において「GIGA スクール対応科目」に相当する科目を開講する。教職大学院は現在、課程認定の審査を受けており、令和4年4月から共通5領域の弾力化に対応した新設領域を設定することは困難であるため、令和6年度から、上記の学部の必修科目に対応した3科目を、共通科目に「GIGA スクール対応領域」として新設する。

#### (2) 「GIGA スクール対応科目」と「GIGA スクール対応領域」

##### 1) 学部の「GIGA スクール対応科目」

新たな科目として「GIGA スクール対応科目」は、下表のような科目群からなる。

科目群	科目名	履修	単位数	教員免許種別
ICT・教育データサイエンスの活用に関する科目	教育情報科学概論	必修	2	小・中免許*
	プログラミング教育基礎演習	必修	1	小・中免許
	ICT 活用実践演習	必修	2	小・中免許
STEAM 教育等の教科横断教育に関する科目（ICT 活用を含む）	STEAM 教育基礎A～E（ICT 活用を含む）	必修	各1 (計5)	小免許
	STEAM 教育（ICT 活用を含む）	必修	1	小免許
	ICT を活用した教科横断教育A～K	選択 必修	2	中免許
インクルーシブ教育に関する科目（ICT 活用を含む）	ICT を活用した通級による指導（自立活動）の授業デザイン	必修	2	小・中免許

\*小免許＝小学校免許、中免許＝中学校免許

上記の科目のうち、「ICT 活用実践演習」では、GIGA スクール事業で導入された ICT 環境を活用した授業実践を附属学校の教員らの実践から学び、ネットを利用した授業で必要な情報モラル教育や実施上に関係する法的側面について学ぶ。その上で、学生同士が5～6名のグループとなり、協働してオンライン授業やオンデマンド教材を取り入れた授業を構想する。構想した授業は、教育実習校の協力の下、実習を受けた学級で実践を行う。また、特例措置を利用して、小学校の教職科目のうち教科科目の一部を「STEAM 教育基礎A～E」（5科目5単位）、上位科目として「STEAM

**教育**（1科目1単位）として再編し、中学校教職科目の2単位を利用して、「**ICTを活用した教科横断教育A～K**」を設定する。以上の科目は主として**多くの教科専門の教員が担当**する。インクルーシブな教育については、**他大学に見られない特別支援教育関係の教員と技術科の教員の協働**による教材づくりの授業実践及び共同研究を行っている。こうした授業実践や研究成果を活かしつつ、学部の科目として「**ICTを活用した通級による指導（自立活動）の授業デザイン**」（2単位、必修）を新設する。

## 2) 教職大学院の「GIGA スクール対応領域」

令和6年度から特例措置により設置する「**GIGA スクール対応領域**」では、学部の上位科目群として、ICT・教育データサイエンスの活用、STEAM教育等の教科横断教育、インクルーシブな教育に対応した下表の科目で構成する予定である。

科目群	科目名	履修	単位数
ICT 機器・教育データサイエンスの活用に関する科目	ICTを活用した教育・情報デザイン	必修	2
STEAM教育等の教科横断教育に関する科目（ICT活用を含む）	教科等の横断と実践開発	必修	2
インクルーシブ教育に関する科目（ICT活用を含む）	ICTを活用した通級による指導（自立活動）の授業デザインの理論と実践	必修	2

## (3) 教師力向上のための従来のカリキュラムとその充実

本学では、これまでも「ファシリテーターとしての教師」、「省察的实践を通じて学び続ける教師」、「教師・地域・専門家等と協働する教師」の育成についての教育に取り組んできたところであるが、ファシリテーターとしての教師力向上には、主体的・対話的で深い学びを通して授業づくりの在り方を理解する必要がある。このため、授業時間・時間割を見直して、主体的・対話的で深い学びの時間確保に努め、**(株)ひとまち**から、ファシリテーション手法の協力を得て授業の改善を図る。

「省察的实践を通じて学び続ける教師」の育成は学校現場における実践を通して、主体的・対話的で深い学びの効果を理解する教育実習、学校支援プロジェクトで育成される。その際に **NPO 法人授業づくりネットワーク**と連携協定を結び、その協力を得て授業を改善する。また、その育成指標として、学部の「上越教育大学スタンダード」に『令和の日本型学校教育』に関する項目を追加することとし、この領域に対応した、**教員の育成指標の評価に基づく「教職大学院スタンダード」**を現職教員、学卒院生別に作成し、評価と改善により教師力の一層の向上を図る。

## 4. 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

全国的な教員養成ネットワークを構築し、先導的・革新的な取組の成果について、教員養成大学・学部や教職課程を有する大学、教育委員会、学校現場等に幅広く展開する。

上越地域の教育委員会や「**学校実習コンソーシアム上越**」に先進的・革新的な授業による研究成果を還元するとともに、授業の内容や成果などを、本学が参画する連合学校教育研究科（博士課程）の基幹校である**兵庫教育大学**、教員養成、研修に関する理念や目的を共有する**東京学芸大学**、連携協定を結んでいる**信州大学**、**都留文科大学**と共有する。また、上記の教職科目の授業内容や成果を、オンラインを活用して教職課程を設置している複数の連携協定締結大学に展開する。

民間企業、NPO などとの連携について、これまでの実績を踏まえ、ICT 教育関係で連携してきた LINE 未来財団 には「ICT 活用実践演習」授業の支援を受けるとともに、(株) デジタルアライアンス、ユーレカ工房 との ICT や AI を活用した授業研究の成果を基に、地理的な条件や時間的な制約を受けない遠隔地でも可能な教員研修の在り方についても研究を進める。また、インクルーシブな教育については 一般社団法人 WheelLog と連携した共同研究を推進する。さらに、NPO 法人授業づくりネットワーク からは、ますます多様化する教育課題について、(株) ひとまち からは、ファシリテーション手法について、授業の改善について協力を仰ぐ。

本学の全国的組織である 上越教育大学同窓会 やサテライト講座、学内に拠点を置く学会等のネットワークを通じて、「GIGA スクール対応科目」の成果等を全国に発信する。先導的・革新的な教職科目の授業の成果などについて、上越教育大学リポジトリを活用 し、『令和の日本型学校教育』と密接に関連する「教員養成学」に関する書籍を上越教育大学出版会による企画出版により刊行し、取組の成果を幅広く展開する。

## 5. 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

上記の先導的・革新的な取組の効果について、学生の資質・能力の修得の状況を把握し、エビデンスに基づく評価を実施する。学部、大学院ともに文部科学省の ICT 指導力チェックリスト を活用し、その能力についても調査する。また、教職キャリアファイル<sup>1</sup>の改訂 を行い、特に GIGA スクール指導の能力向上について明らかにできるようにし、結果を調査する。さらに、「GIGA スクール」対応の要素も含めて学部の「上越教育大学スタンダード」の改訂を行い、教職大学院についても「教職大学院スタンダード」を作成する。これらの指標によるエビデンスに基づき、教育委員会や学校現場に学校教育の課題解決のための対応策の提示・支援を行い、教育や教員養成の近未来像の描出を行う。

また、ここで提案する「GIGA スクール対応科目」をはじめ、カリキュラムの改革が必要不可欠である。こうしたカリキュラムの改革を通じて、我が国の教員養成を先導する観点からのコアカリキュラムの確立や評価基準の開発その他の教員養成に関する制度改革についての具体的な提案を行う。その際に、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会に設置される「教員養成フラッグシップ大学推進委員会」（以下「推進委員会」という。）における新たな教職課程のモデル開発に協力する。

さらに、推進委員会からの助言等も踏まえ、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についての中央教育審議会での議論等に貢献する取組や提言等も行うこととする。

## 6. 本構想の実現に向けた取組の推進

本学では、教員養成フラッグシップ大学への採否に関わらず、対応可能な制度上の枠組みの中で、第4期中期目標・中期計画において取り組むこととしている「教員養成学」の確立とともに、他大学に先駆けて本構想の実現に向けた取組を推進するものとし、優先的な学内予算の措置を予定している。また、事業終了後も引き続き『令和の日本型学校教育』を担う教員の養成に係る発展的な新規プロジェクトを展開する。

<sup>1</sup> 学生が学内外で経験する様々な学びの軌跡をつなぎながら、保存・活用していくポートフォリオ。教職キャリアファイルを作り続ける過程で、教職に対する適性について自己確認し、教職に関わる自己課題を更新・実践・評価改善する。